

令和4年度 第1回出雲市環境審議会 会議概要

開催日時：令和4年(2022) 7月6日(水)
9時30分～11時00分
開催場所：出雲市役所 本庁3階 庁議室

1) 次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 市長あいさつ
4. 諮問「出雲市環境総合計画の策定について」
5. 議事
 - (1) 現行計画の進捗状況及び検証について
 - ①「第2次出雲市環境基本計画」の進捗状況 ……資料1-1
 - ②「第2次出雲市地球温暖化対策実行計画」の進捗状況 ……資料1-2
 - ※出雲市環境レポート(令和2年度(2020)のまとめ) ……資料別冊
 - (2)「出雲市環境総合計画」の策定について
 - ①計画策定の趣旨・概要 ……資料2-1
 - ②計画の構成(案) ……資料2-2
 - ③計画策定のプロセス・スケジュール ……資料2-3
 - ④市民・事業者アンケート ……資料2-4
6. その他
 - ・任期満了に伴う委員改選について
 - ・第3次出雲市ごみ処理基本計画の策定について
 - ・第2回環境審議会の開催について

日時：9月26日(月) 13:30～16:30 会場：未定

2) 出席者

【委員】

		氏名	所属・役職等
1	会長	森本 直知	(一財) 大社湾漁業振興基金専務理事
2	委員	本田 一勇	出雲市議会環境経済委員会副委員長
3	委員	烏田 富夫	出雲市環境保全連合会久多美支部会長
4	委員	岩崎 知久	環境省環境カウンセラー
5	委員	園山 純	前島根県不法投棄監視モニター
6	委員	甲山美紀恵	大社地域自治協会連合会理事
7	委員	山田 康弘	出雲市環境保全連合会伊波野支部会長
8	委員	柴田 研司	中国電力ネットワーク(株) 出雲ネットワークセンター 所長
9	委員	山岡 尚	出雲商工会議所専務理事
10	委員	珍部 誠	島根県農業協同組合出雲地区本部 常務理事本部長
11	委員	山根 秀	出雲市コミュニティセンター長会理事・ 北浜コミュニティセンター長
12	委員	米原 誠	環境マネジメントシステム審査員

【事務局】

		氏名	所属・役職等
1		三島 慎也	地域環境部長
2		角 健二	地域環境部次長 環境政策課長
3		園山 博之	環境政策課 ゼロカーボン推進室長
4		青木 保徳	環境政策課 課長補佐
5		金築 敏幸	環境政策課 環境保全係長
6		山根 進	環境政策課 ゼロカーボン推進室 係長
7		日野 恭美	環境政策課 ゼロカーボン推進室 主任
8		森山友香子	環境政策課 環境政策係 主事
9		江角 裕之	環境政策課 主査
10		江角 健	環境政策課 減量推進係長

【委託業者】

		氏名	所属・役職等
1		勝部 祐治	(株) エブリプラン 専務取締役
2		山田 将巳	(株) エブリプラン 地域政策推進部取締役部長
3		門野 淳記	(株) エブリプラン 地域政策部研究員

3) 議事要旨

(1) 現行計画の進捗状況及び検証について

事務局：資料1-1の現行計画の達成状況は、「出雲市環境レポート(令和2年度(2020))」を基にしている。昨年度からの追加点として、令和3年度の進捗状況について、結果が既に出ているものを反映している。次回の審議会では、令和3年度分の結果を改めてお示しする。

また、資料1-2のCO₂排出量について、国から令和元年度の数値が公表されたものを掲載している。これによると、「第2次出雲市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】」で設定した基準年度(平成25年度(2013))と比べ、約10.1%の削減となっている。

委員：資料1-2の出雲市における再生可能エネルギー設備容量(FIT制度)の導入状況について、これは現在稼働しているものを積み上げた数値なのか。

事務局：稼働が開始されたものを積み上げた数値である。あくまでFITで売電しているものであり、自家消費や卒FIT分は含まれていない。

委員：資料1-2の出雲市役所の取組(事務・事業)について、ここ数年「市職員のマイカー通勤自粛の取組」の目標が達成できていない。このことについて市としてどのように考えているか。

事務局：令和3年度(2021)についても、目標達成率が67.3%に留まっており、重く受け止めている。通勤手段を強制することはできないが、地道な取組を継続する必要がある。月に1回のエコ通勤ウィークを実施しているほか、年4回全職員にアンケートをとり、その結果を公表することで、職員への普及啓発を行っている。「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」も来年度に向けて新たな計画を策定予定であり、こういった現状を念頭に置いて進めていく。

委員：市職員のマイカー出勤について、毎回同じような結果が出ている。バスや電車といった公共交通機関では時間に間に合わず、自転車では気温の高い夏や雪、台風の日などは難しいといった事情がある中で、これまで通りの地道な取組でよいのかという疑問がある。出雲市では、車がないと生活が難しい。

事務局：省エネの取組については、一人ひとりの意識にかかっているということもあり、そういった普及啓発については今後も地道に継続していく。
しかし、ご指摘のとおり変えることが難しいこともある。そういったところへの対応として、例えば車であれば、全国的にも導入が進められている電気自動車をはじめとした、化石燃料に頼らない車の普及を図るなど、多様な方面からできることを考えていく必要がある。

(2) 「出雲市環境総合計画」の策定について

- 委員：今回の「出雲市環境総合計画」と「次期出雲市総合振興計画」の計画期間は同じなのか。どちらもSDGsの取組が入っており、総合振興計画と環境総合計画で連携をとることは良いことである。
- 事務局：計画期間について、次期総合振興計画は令和4年度(2022)～令和11年度(2029)、環境総合計画は令和5年度(2023)～令和12年度(2030)となっている。
- 委員：計画構成案について、計画の対象分野である「自然環境」と「快適環境」のどちらにも関係することだが、海洋ごみ対策等といった海に関する取組をもっと組み入れてもらいたい。
- また、「地球環境」について、特に再エネの導入に関しては、市が積極的に先導しなければ、民間の取組も進まない。一方で、再エネの導入が環境破壊や災害の原因とならないよう対策をとる必要があり、全国で5県と190以上の市町村で、条例による再エネの導入の推進や規制に取り組んでいる。出雲市においても、そのような条例について、市議会等で検討してもらいたい。
- 事務局：海に関する視点も非常に重要であり、特に海洋ごみについては出雲市にとって以前から大きな問題となっており、近年ではマイクロプラスチックが世界的にも問題視されている。今回の資料で示しているのはあくまで案であり、今後とも委員の皆様の声を反映させていく。
- また、市として取り組むべきことについて、温室効果ガス排出量を平成25年度(2013)比で2030年に46%削減、2050年には実質ゼロという目標がある中、全国の自治体もまだ明確に落とし込めていない。今回の環境総合計画が、今後の市の取組の羅針盤となるよう、次年度から実行に移せるように具体的な数値目標(例：太陽光発電の導入等)を設定するなどして、実効性を上げていきたい。
- 再エネの導入促進については、今回追加した「地域別配慮方針」等で、環境に配慮した進め方を検討していきたい。
- 委員：通勤・通学について、定着するまで長い時間がかかると思うが、自転車通勤の推奨をぜひ進めてもらいたい。課題として、現在高校生が乗っているような自転車はスピードが出ない。日本よりも平地であるという前提があるが、オランダでは高校生の自転車購入に対する補助制度がある。変速機能の付いた自転車や電動自転車といった、より高性能な自転車に変えることで、通学あるいは通勤時間を短縮することができる。自転車通勤により、健康づくりも促進され、地球温暖化対策と医療福祉に係る費用の削減の両方を進めることができる。全ての自動車を電気自動車にするには時間がかかるが、まずは高校生の自転車を、いわゆるママチャリからスポーツバイクに変えるところから始めてはどうか。

委員：大学生にもアンケートをとってはどうか。県外からきている学生もおおり、参考になると思う。

事務局：市内には大学が2つあり、県外からきている学生も多い。県外から来ているということで貴重な意見になる可能性もあると思われるので、大学へのアンケートの実施も検討する。

委員：計画構成案の「生活環境」の中に、神西湖環境回復プロジェクトといったフレーズが入っているが、日本海沿いの海岸に漂流ごみが多く問題になっており、今回の計画においても取り上げてもらいたい。

事務局：今回の計画構成案で掲げている項目はあくまで一例であり、今回新たに追加すべきトピックス等についてまとめている。漂流ごみは以前から続いている問題であり、今回の計画においても取組を継続していく。

委員：今回の環境総合計画の構成案について、地球温暖化対策が大きく取り上げられているのは良いと思う。出雲市のCO₂排出量をみると、産業部門の排出割合が大きく、今回の計画における事業者の役割が占めるウェイトは大きいと感じている。一昨年、菅総理が2050年カーボンニュートラルの目標を宣言したが、ウクライナの場合もあり、エネルギーの価格が高騰しており、石炭火力にも再び注目が集まっている。そういったところも踏まえながら、将来的なゼロカーボンの達成を見据え、現実的な方針を考えてもらいたい。

事務局：ご指摘の通り、国により2050年脱炭素に向けた方針が出ている一方、エネルギー情勢が不安定な状況である。今後、常にアンテナを張りながら、絶えず現状把握と分析、見直しを続け、時勢にあった計画を進めていく。

会長：出雲エネルギーセンターに関して、今後のエネルギー供給等について事務局から何かコメント等はないか。

事務局：出雲エネルギーセンターは今年4月から稼働を開始しており、今日まで順調に稼働している。昨年設立したいずも縁結び電力（株）も順調に事業の調整を進めている。ただ、ごみを燃料とした発電であるため、法規制の問題もあり、今後発電能力を高めることは難しい。その代わりにいずも縁結び電力（株）として、今後新たな再エネの発電所を開拓し、市内への電力供給を進められればと考えている。市としては、今後もエネルギーセンターから安定的に電力を供給していくということに重点を置いた後方支援をしていきたいと考えている。